

隙間を埋める

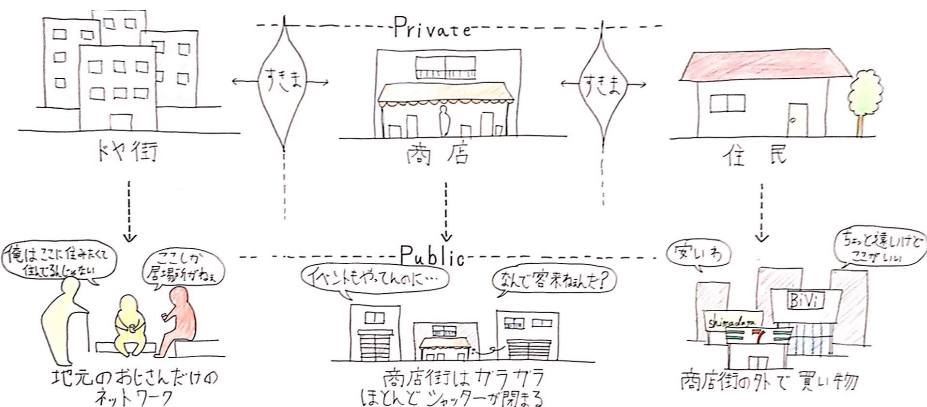
～山谷ドヤ街コミュニティ～



川手 祥右
建築設計計画研究

□コンセプト

ドヤ街。それは日本が高度成長期にできた労働者の寄せ場であり、簡易宿泊所が集まった街の事を言う。2016年になった現在、ドヤ街は高齢者しかいない街になりつつある。そのせいか周りの商店街はシャッター街になり、活気のない状態になっている。私のその現状を変えたいと思い、それが卒業設計の課題になった。取り組んだ敷地は山谷という、東京都台東区にある街だ。山谷は昔の名であり、現在の清川、日本堤、東浅草付近の事を指す。私はその中の日本堤1丁目を課題の敷地に選定した。



□プログラム

山谷の街の要素は分けると3つに分類できる。ドヤ街、商店、住民だ。ドヤ街の住民は住民同士のネットワークがある。でもそれは訪問者にとって入りにくい空気になっている事に気づいた。また商店街を利用する住民も少ない。そうすると商店街は活気なくなる。シャッターを閉める店が多くなる。すると、住民は商店街ではなく遠く大型ショッピングセンターやコンビニを使うようになる。これらの要素に隙間ができていないのか。そこでドヤ街のドヤを変えることで隙間を埋めようと考えた。

□デザイン

ドヤのデザインは表向きは小さな開口だけで、どういう建物なのか分かりづらい。また入り口も一つしかなく、廊下は暗い。これでは訪問者のコミュニティは起きない。そこで私のデザインはドヤの個室の開口を大きくし、その表面を曇りガラスで覆い、僅かなアクティビティを分かるようにした。そしてその空間からでるとみんなのリビングという小さなスペースがいくつもあある空間にでる。そこではコミュニティのきっかけを作るように設計をした。そこからドヤ街の印象を変えていけたらいい。そこから訪問者のネットワークを構築したらドヤ街はもっと入りやすい場になる。それが私のデザインだ。

